

<学校名> 草加市立川柳小学校

<所在地> 草加市青柳7丁目27-10

<電話> 048-931-5025

<本事例の特徴>

本校には、外国籍の児童が12名在籍している。ここ数年で県外や他市町村からの転入学してくる児童が少しずつ増加している。そこで、これらの外国籍の児童やその周りの児童がどう関わっていくかを学習する取組について、道徳科を中心に紹介する。

<具体的な取組や成果>

○小3道徳科における道徳的価値項目「国際理解・国際親善」教材名【アメリカから来たサラさん】の学習 学研「新・みんなのどうとく3」

「外国の人々との間にある言語や文化、考え方の違いについて考え、外国の人々や文化を尊重する心を持ち、世界の人々と理解し合おうとする心情を育てる。」ことをねらいとした学習である。

ALTをゲストティーチャーとして招き、初めて日本に来た時の話や出身地であるフィリピンでの話、現地の名産品などの話を聞き、他国の文化についての興味・関心を高めた。

○児童の感想より（一部）

外国の人とは、ドキドキしてなかなか自分から話しかけられないけど、ALTの先生の話聞いて、もっとフィリピンのことを知りたくなった。いつかもっと英語を話せるようになって、いろんな国に遊びに行きたい。

言葉がちがっても、人はなかよくなれることがわかった。大切なことは、その人と話したいと思う気持ちや思いやりだと思う。ぼくも日本とか国がちがうとか関係なく、いろいろな人と友だちになってみたいと思った。

○終末に東京オリンピック・パラリンピックの動画を見せ、国際的な催しであることを紹介した。世界の人々が日本に集まって競技する姿を見たり、肌や髪の色、服装の違いなどに気づかせたりすることで、それぞれの国の違った文化があることを理解することができた。

○児童の思いを広げるために、「国によってちがう服や家」を取り上げ、地球には様々な人々がいて、それぞれ違った文化があることを伝えた。その国の人々が当たり前だと思っているものが、他国の人々にとっては当たり前ではなく、その反対もあることに気づかせることができた。また、児童が興味のある国についてタブレット端末を使って調べさせることにより、理解を深めた。

わたしはメキシコに興味を持ちました。写真を見るとギターを持っているので、音楽が好きな人が多い国なのかなと思いました。わたしも歌が好きなので、メキシコの音楽も聞いてみたいです。